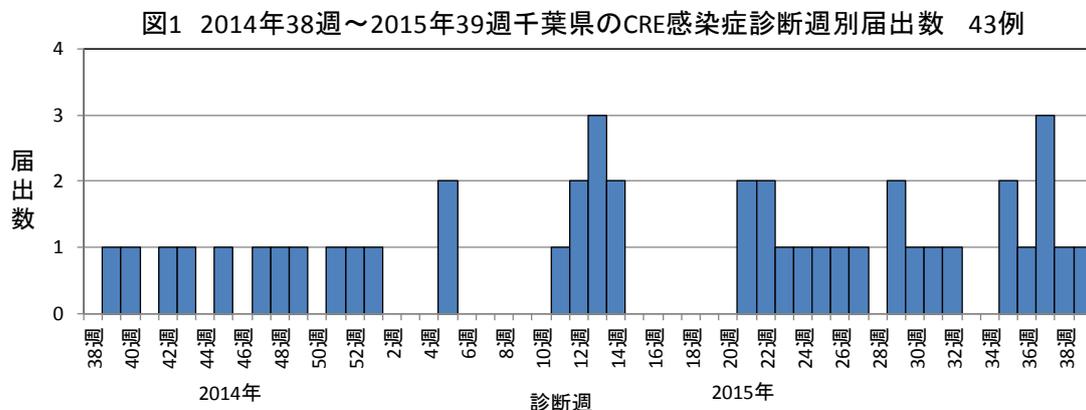


### カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症

CRE 感染症は、平成26年9月19日(2014年38週)から感染症法に基づく5類感染症の全数把握となった。感染症発生動向調査の対象となつてから1年が経過したことから、この間の発生状況についてまとめた。



千葉県では、2014年38週から2015年39週の間、43例の届出があつた(図1)。

保健所別では、千葉市12例、印旛9例、船橋市6例、松戸4例、君津4例、習志野3例、市川2例、柏市1例、市原1例、山武1例だった。

性別は、男性31例(72.1%)、女性12例(27.9%)だった(表1)。

年齢群別では、40代2例(4.7%)、50代5例(11.6%)、60代12例(27.9%)、70代13例(30.2%)、80代9例(20.9%)、90代2例(4.7%)だった(表1)。

症状等として記載があつたのは、尿路感染症13例(30.2%)、敗血症9例(20.9%)、肺炎8例(18.6%)、腹膜炎4例(9.3%)、菌血症4例(9.3%)、胆管炎3例(7.0%)、髄膜炎1例(2.3%)があつた(複数回答あり)。

診断方法としては、通常無菌的であるべき検体からの分離・同定による腸内細菌科細菌の検出及び分離菌の薬剤耐性の確認が18例で、検出検体として記載があつたのは、血液11例(61.1%)、腹水3例(16.7%)、その他5例(27.8%)だった(複数回答あり)。また、通常無菌的ではない検体からの分離・同定による腸内細菌科細菌の検出、分離菌の薬剤耐性の確認及び分離菌が感染症の起原菌であることの判定が25例で、検出検体として記載があつたのは、尿11例(44.0%)、喀痰7例(28.0%)、膿6例(24.0%)、その他4例(16.0%)だった(複数回答あり)。

菌種として報告されたものを表2に示す。*Enterobacter*属が25例で58.1%を占めていた。

90日以内の海外渡航歴は、17例に記載があり、16例は渡航歴がなく、1例は不明であつた。

表1 2014年38週～2015年39週 千葉県のCRE感染症 性別・年齢群別届出数

年齢群別	男性		女性		合計	
	届出数	%	届出数	%	届出数	%
40代	2	6.5	0	0.0	2	4.7
50代	4	12.9	1	8.3	5	11.6
60代	8	25.8	4	33.3	12	27.9
70代	10	32.3	3	25.0	13	30.2
80代	6	19.4	3	25.0	9	20.9
90代	1	3.2	1	8.3	2	4.7
合計	31	100.0	12	100.0	43	100.0

表2 2014年38週～2015年39週 千葉県のCRE感染症 菌種別届出数

菌種	届出数	%
<i>Enterobacter aerogenes</i>	13	30.2
<i>Enterobacter cloacae</i>	12	27.9
記載なし	8	18.6
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	3	7.0
<i>Providencia rettgeri</i>	2	4.7
<i>Escherichia coli</i>	2	4.7
<i>Morganella morganii</i>	1	2.3
<i>Citrobacter</i> spp.	1	2.3
<i>Citrobacter freundii</i>	1	2.3
合計	43	100.0